

- 問1 現代の日本において、福岡市のような大都市圏では第3次産業に従事する人の割合が非常に高くなっています。都市部において、農村部と比較して第3次産業が発達する理由として最も適切な説明はどれですか。 (2016年 岡山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 自然環境を活かした観光資源が豊富であり、キャンプ場や林業の経営が主な収益源だから | 2. 原料の輸入に便利な港湾施設が整備されており、鉄鋼や化学製品などの製造が中心だから | 3. 平坦で広い土地を確保しやすいため、大規模な機械化農業を行う環境が整っているため | 4. 人口が密集しており、多様な生活を支える小売業やサービス業への需要が非常に大きいため |
|---|---|--|--|
- 問2 あるみかん農家が、収穫したみかんの一部をジュースやゼリーに加工し、それらを自ら運営する直売所で消費者に直接販売しています。このような取り組みを行う主な目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2025年 栃木県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 海外から安価な原材料を輸入することで、加工品の製造コストを大幅に削減すること | 2. 農産物に加工や販売という工程を加えることで付加価値を高め、農家の所得を向上させること | 3. 農地を大規模に集約して大型機械を導入し、みかんの生産効率を極限まで高めること | 4. 化学肥料や農薬を一切使わない農法に切り替えることで、農作物の安全性をアピールすること |
|---|---|---|---|
- 問3 日本が、不要になった家電製品からレアメタルを回収し、リサイクルを推進している理由として、世界の資源状況を踏まえた背景を説明したも
のとして最も適切なものはどれですか。 (2018年 富山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. レアメタルは日本国内の山地で容易に大量採取できるため、採掘コストを抑えて生産を増やすため | 2. 家電製品を不法投棄することによって、土壌に含まれるレアメタルが自然に増殖するのを防ぐため | 3. レアメタルの産出地は特定の国に偏っており、輸入が滞るリスクに備えて資源の安定確保を図るため | 4. 不要になった家電製品をそのまま海外へ輸出し、輸出額を増やすことで貿易黒字を維持するため |
|---|---|--|--|
- 問4 長野県の野辺山原のような標高の高い地域では、夏の気温が平地に比べて低いという気候条件を活かして、他の地域での生産が難しい夏から秋にかけてレタスなどの高原野菜を出荷しています。このように、自然環境を利用して出荷時期を遅らせる栽培方法を何といいますか。 (2016年 富山県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|---------|---------|---------|
| 1. 二毛作 | 2. 近郊農業 | 3. 促成栽培 | 4. 抑制栽培 |
|--------|---------|---------|---------|
- 問5 農産物の産地を比較した説明として正しいものを、次のうちから選びなさい。なお、データ上の特徴として、Aは北海道が収穫量の大部分を占め長崎県が上位に入り、Bは鹿児島県と茨城県が収穫量の上位を占めているものとします。 (2023年 熊本県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------|-------------------|----------------------------|------------------------|
| 1. Aはじゃがいも、Bはさつまいもである。 | 2. Aはてんさい、Bは茶である。 | 3. Aは乳牛の飼育頭数、Bは肉牛の飼育頭数である。 | 4. Aはさつまいも、Bはじゃがいもである。 |
|------------------------|-------------------|----------------------------|------------------------|
- 問6 複雑な海岸線を持つリアス海岸の統計において、三重県などで生産額が上位を占める「真珠」や、広島県・宮城県などで盛んな「カキ」の生産は、共通してどのような環境上の利点を活用していますか。最も適切な説明を選びなさい。 (2024年 富山県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------------------------|----------------------------------|--------------------------------|-----------------------------|
| 1. 入り江によって外洋の荒波から守られた、波の静かな環境 | 2. 暖流と寒流がぶつかり合い、プランクトンが大量に発生する環境 | 3. 干潮時に広大な砂地が現れ、日光による殺菌が行われる環境 | 4. 大陸棚が広がり、太陽の光が海底まで届く浅瀬の環境 |
|-------------------------------|----------------------------------|--------------------------------|-----------------------------|
- 問7 ある国の貿易データによると、輸出総額のうち原油が80.6%を占めており、上位の輸出品目が特定の資源に集中しています。このような国の貿易構造の特徴を表す説明として最も適切なものを選びなさい。 (2026年 徳島県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|
| 1. 加工貿易を中心とした、高付加価値製品主体の貿易構造である。 | 2. 自動車や精密機械などの工業製品の輸出が大半を占める貿易構造である。 | 3. 小麦や大豆などの農産物をを中心に輸出する貿易構造である。 | 4. 特定の鉱産資源の輸出への依存度が非常に高い貿易構造である。 |
|----------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|
- 問8 山形県で生産が盛んな果実であるさくらんぼ、ぶどう、りんご、西洋なしの統計を比較した際、栽培面積に対する収穫量の割合、つまり「単位面積あたりの収穫量」が最も高く、高い土地生産性を示している果実はどれですか。 (2026年 京都府公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|--------|---------|--------|
| 1. さくらんぼ | 2. ぶどう | 3. 西洋なし | 4. りんご |
|----------|--------|---------|--------|
- 問9 2020年度の日本の統計によると、国内の貨物輸送における二酸化炭素排出量は、輸送量あたりで自動車（営業用貨物車）が1431gであるのに対し、船舶は43g、鉄道は21gと大きな差があります。こうした現状を踏まえ、環境負荷を抑えるために進められている「モーダルシフト」の説明として最も適切なものはどれですか。 (2023年 岡山県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 石油資源の消費を抑えるために、化石燃料を使用する輸送手段から電気自動車による輸送へ全面的に転換すること | 2. 物流の効率化を図るために、大型トラックによる長距離輸送から小型トラックによる個別配送へ転換すること | 3. 二酸化炭素排出量が多い自動車から、排出量の少ない鉄道や船舶による輸送へ転換すること | 4. 都市部の渋滞を解消するために、貨物輸送を地上から地下鉄や専用の地下トンネルを用いた輸送へ転換すること |
|--|--|--|---|
- 問10 日本の国内貨物輸送の推移において、1950年には全体の3割以上の割合を占めていた主要な輸送手段であったものの、1990年には1%程度にまでその割合が大きく低下した輸送手段として適切なものはどれか。 (2018年 岐阜県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------|------------|-----------|-------------|
| 1. 航空機による輸送 | 2. 鉄道による輸送 | 3. 船による輸送 | 4. 自動車による輸送 |
|-------------|------------|-----------|-------------|
- 問11 日本の統計において生乳の生産量が全国で最も多い北海道では、生産された乳をそのまま出荷するだけでなく、バターやチーズなどの加工品にする割合が高いという特徴があります。その理由として最も適切なものはどれですか。 (2023年 鹿児島県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---------------------------------------|--|---|
| 1. 北海道の気候では冬に生乳が凍結してしまうため、あらかじめ加工しておく必要があるから | 2. 近郊農業の一種として、新鮮な状態ですぐに消費者に届けことが困難だから | 3. 大消費地から遠いため、加工して保存性を高めるとともに輸送しやすくする必要があるから | 4. 乳牛の飼育頭数が多すぎるため、生乳のままでは市場価格が暴落してしまうから |
|--|---------------------------------------|--|---|
- 問12 2017年の産業別就業者数の統計において、東京都、大阪府、福岡県といった大都市圏のほかに、北海道や沖縄県でも第3次産業の就業者が全体の75%以上を占めています。北海道や沖縄県でこの割合が特に高くなっている背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2020年 徳島県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 豊かな自然環境を活かした観光業やサービス業が発展しているため。 | 2. 臨海部に多くの工業地帯が形成され、製造業の雇用が大きいため。 | 3. 豊かな水産資源を背景とした水産加工業などの製造業が盛んであるため。 | 4. 広大な土地を利用した大規模な機械化農業や酪農が産業の中心であるため。 |
|------------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|

答え合わせ・解説

問1	答え 4 人口が密集しており、多様な生活を支える小売業やサービス業への需要が非常に大きいため	都市部では人口や企業が集中しているため、食料品や衣類を販売する小売業、あるいは情報通信、金融、娯楽といった多様なサービス業（第3次産業）が成立しやすくなります。逆に、広い土地を必要とする第1次産業や、大規模な工場用地を必要とする第2次産業は、土地価格が高い都市部よりも郊外や地方で展開される傾向があります。
問2	答え 2 農産物に加工や販売という工程を加えることで付加価値を高め、農家の所得を向上させること	原材料としてのみかんをそのまま売るよりも、ジュースなどの加工品にして販売する方が、商品としての単価を高く設定できるため、農家の利益を増やすことができます。このように、生産から販売までを一貫して行うことで、市場価格の変動に左右されにくい経営基盤を作ることが期待されています。
問3	答え 3 レアメタルの産出地は特定の国に偏っており、輸入が滞るリスクに備えて資源の安定確保を図るため	レアメタルは、産出地が中国や南アフリカ共和国など一部の国に集中しているため、国際情勢や産出国の政策によって供給が不安定になるリスクがあります。ハイテク産業に不可欠これらの資源を安定的に手に入れるため、国内で廃棄される家電製品から回収して再利用する「リサイクル」の仕組みを整えることが、日本の資源安全保障において極めて重要となっています。
問4	答え 4 抑制栽培	標高が高い地域の涼しい夏を利用し、他の産地が品薄になる時期に合わせて出荷を遅らせる工夫は抑制栽培と呼ばれます。これに対し、宮崎県や高知県などで温暖な気候を利用して出荷時期を早める方法は促成栽培であり、混同しないよう注意が必要です。
問5	答え 1 Aはじゃがいも、Bはさつまいもである。	じゃがいもとさつまいもは、どちらも日本を代表するいも類ですが、栽培に適した環境が異なります。じゃがいもは冷涼な気候を好むため北海道が主産地となりますが、さつまいもは温暖な気候を好み、火山灰地でも育ちやすいため、鹿児島県のシラス台地や茨城県の台地での栽培が盛んです。この産地の違いは、中学地理における農産物の判別のポイントとなります。
問6	答え 1 入り江によって外洋の荒波から守られた、波の静かな環境	養殖業を営むためには、設置したイカダや網が壊されないよう、波が穏やかであることが必須条件となります。リアス海岸は山地が海に沈んでできた地形であり、深く入り込んだ湾内は外洋から遮断された閉鎖的な水域となるため、稚魚や貝類を育てるのに非常に適した環境を提供しています。潮目がぶつかる環境や大陸棚は主に漁船を用いた漁業に関連する特徴です。
問7	答え 4 特定の鉱産資源の輸出への依存度が非常に高い貿易構造である。	輸出総額の80%以上を原油が占めていることから、この国は特定の鉱産資源の輸出に大きく依存している貿易構造であることが読み取れます。
問8	答え 3 西洋なし	山形県の果樹栽培において、さくらんぼは栽培面積が約2,880ヘクタールと最大ですが、西洋なしは面積が約823ヘクタールと4品目の中で最小です。しかし、西洋なしの収穫量は13,200トンに達しており、1ヘクタールあたりの収穫量を計算すると、広大な面積を持つさくらんぼ等よりも効率よく生産されていることがわかります。このように、収穫量の絶対数だけでなく栽培面積との比率を見ることが、農産物の生産性の違いを分析することができます。
問9	答え 3 二酸化炭素排出量が多い自動車から、排出量の少ない鉄道や船舶による輸送へ転換すること	モーダルシフトは、地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出を抑制することを目的としています。日本の貨物輸送では自動車（トラック）が中心的な役割を果たしていますが、自動車は鉄道や船舶と比較して、同じ量の荷物を運ぶ際に出す二酸化炭素の量が非常に多いという課題があります。そのため、環境負荷の少ない鉄道や船舶へと輸送手段を切り替えることが、持続可能な社会の実現に向けた重要な施策となっています。
問10	答え 3 船による輸送	1950年代の日本では、一度に大量の荷物を運ぶことができる船や鉄道が国内貨物輸送の主役でした。しかし、その後の高度経済成長期を通じて道路網の整備が進み、目的地まで直接荷物を届けることができる自動車（トラック）輸送の利便性が高まったことで、船による輸送割合は相対的に激減しました。このように輸送の主役が交代することを交通革命とも呼びます。
問11	答え 3 大消費地から遠いため、加工して保存性を高めるとともに輸送しやすくする必要があるので	生乳は鮮度の低下が早く、液体であるため輸送コストもかかります。北海道は関東や関西といった大きな消費地から離れているため、水分を抜いて保存性を高めたバターやチーズに加工することで、長距離の輸送を可能にし、付加価値を高めています。一方、都市近郊の酪農地域では、新鮮さが求められる飲用牛乳としての出荷が多くなります。
問12	答え 1 豊かな自然環境を活かした観光業やサービス業が発展しているため。	北海道と沖縄県は、それぞれ広大な大地や美しい海といった独自の自然環境を有しており、それを活かした観光業やサービス業が主要な産業となっています。産業別人口の統計において、サービス業・商業などは第3次産業に分類されます。北海道や沖縄県では、第1次産業（農業・漁業など）や第2次産業（製造業・建設業など）に比べて、この第3次産業の就業者割合が極めて高いのが特徴です。選択肢にある農業は第1次産業、製造業や水産加工業は第2次産業に該当します。